

氷野小学校とのお話交流会

第1回校内研究授業では、3年生が国語科「フニのおじいさんのたからもの」の学習に取り組みました。この単元では、物語の中心となる出来事を捉え順序よくまとめながら「あらすじ」を書く力を育てました。

単元のゴールには「氷野小学校の3年生とお話交流会をしよう」を設定し、学習した「あらすじを書く力」をいかして、自分のお気に入りの本を紹介する「紹介カード」作りに挑戦しました。

そして、7月7日の午後。完成した紹介カードを持って氷野小学校を訪れました。体育館ではじめて対面した時は、少し緊張した様子も見られましたが、アイスブレイクの「自己紹介ゲーム」に取り組む中で、子どもたちは少しずつ打ち解け、交流を深めていきました。

その後の「お話交流会」では、それぞれが作成した紹介カードをもとに、お気に入りの本の魅力を紹介し合いました。子どもたちは友だちの紹介に興味を持って聴いたり、「読んでみたい!」と感想を伝え合ったりするなど、学習の成果を共有する貴重な機会となりました。また、本を通して新しい友だちとつながる喜びを感じることもできる有意義な交流会となりました。



研究授業から広がる 「共同注視」の取組

前回の研究授業の最後に、第2回の授業者である古賀先生から示されたキーワードの1つが「共同注視」でした。

3年生では、研究授業の翌週から様々な教科の交流場面において、「共同注視」を子どもたちと共有しながら実践を積み重ねています。氷野小学校との交流会でも、子どもたちは「共同注視」を意識しながら互いに関わり、交流する姿を見せていました。



このように、研究授業で示された視点を日々の授業の中で実践し、次の学びへとつなげていく姿は、3年生だけでなく他の学年でも見られています。

次回の研究授業後の討議会では、授業を行う学年の子どもたちの姿だけでなく各学年で見られた具体的な子どもたちの姿をもとにした活発な対話が展開されることが期待されます。

